夕刊
十月十一日發行
發行所 磐城新聞會社
（日曜祭日翌日休刊）

踊子悲歌

藤尾禎亮

四

『そして三度目にお逢ひした時の事なの、妾ニューグランドで英人のウエッチさんに、さん〴〵飲まされちやつて止めるのもきかずに踊りのその足でお店へ寄るつもりで歩いてホテルを出たの、そして暫らくして途中でグラ〳〵と眼廻りがすると同時に妾倒れちやつたのよ、そして氣が附いた時は自分の室のベットの上に休んで居る自分を知ると同時に、その方が椅子に掛けて心配さうに妾を見て居るのに氣が附いたの、そしてその方の話しで、妾が倒れると通り合はせたその方がお自動車でアパート迄送つて下すつたんですつて』

永い過去の出來事をそこまで休まず話したルミは、またハンカチを取ると眼の邊りを、もう一度ふいた

讓次はさきからだまつて火の點いたシガーを手持不沙汰に指先でもんで居たが

『今夜は、ルミの泣言を聽きに來た樣なもんだね』

と、口を割つた

『濟まないわネ讓次――だけどもう少しきりよ、我慢して付き合つてね』

と、言つてルミは續きを語らうとした時、今迄休憩して居たバンドのサキソフオーンが鳴り出すと、にぎやかなメロデーが奏でられ始められた。それには無關心に

『その方の御親切、ルミ永久に忘れられないの、眞實に男らしい方、逢へた期間はほんの短かかつたけど、その時からルミその方に自分でも分らない情熱に惱まされたの……後でそれが「戀ぢやないか知ら」と、一人で考へて見たワ、でも只それだけで戀らしい感情だと肯定するには餘りにも寂しみし過ぎたけど、矢つ張り戀だつたの、生れて初めて、人の情を知り人生に初めての戀をしたルミのその時受けた印象は深かつた事よ、その方ルミの心も知らないでそれきり逢へなかつたの、聽けばもう上海へお一人で赴任しちやつたつて話しなの……それで妾もう一度その方にお逢ひしたいの、ね讓次、ルミの心分つて呉れた』

語り終へたルミの心は次第に落着きを取りもどして來たのであつた

『ルミ！その方の居る所君知つてるのかい』

『ゝゝ妾、その方と御一緒に、ホールへ來た事のあるお友達の方をチャッチしやつて、アドレスをスッカリ聽いちやつたの、こゝに持つてるワ』

と、言つて大事さうな紙片を手提から取出すと、讓次に見せ樣とした。それにはペンで鮮明に、友達とか云ふ男の書いたであらう、強い力の入つた男文字でアドレスが書かれてあつた

詩境短歌會詠草

兼題『驛』

○學び舍に歸る妹と物言ず露草の道驛にむかへり 草野みどり

○幾年の會ひ見ぬ母を思ひつゝ今朝故鄕の驛の土踏む 加藤義高

○我れしばし驛に集へる人の香にひたりてあれば旅心湧く 田島鶴治

○木の子に引かれ〳〵て夕月夜來るともなしに驛に入りたり 横山三義

○艶のなき女の髮の赤らめる驛待合に夕陽まつはる 田村勇

○限りある年に失ふくちすぎのやつれし友に涙せる驛 森下熊市

明るき秋

久保徹夫

上

木の葉は黑や紅に色づき栗の實を拾ふ栗鼠が、キッ〳〵と鳴きながら、木を登つたり、降りたりしてゐる秋の雜木林をぬけると、廣い開墾地があります

松葉杖にすがるやうにして、信吉さんは開墾地の入口に立ちました。そして驚ろいたやうに『おゝ！もうこんなに開墾したのか』とつぶやくのでした

『おーい、民三やあー』

と、信吉さんは片方の手を上げて、遠くで働いてゐる息子を呼びました。民三さんは一生懸命で掘出した木の株を荷車に積込んでゐましたが、父に呼ばれて『おーい』と、笑顔を向けて返事をするのでした

信吉さんは、右の手に持つてゐた辨當の風呂敷包を高く上げて叫びました

『辨當持つて來たぞ』

『父つあん、濟まんなあ』

と、靜かな秋の開墾地の空氣が破れるやうな大きな聲で、民三はこたへました

こんなに元氣に働いてゐる息子の姿を見ると、信吉さんは涙ぐんで了ふのです

――俺は、まだ四十歳を越えたばつかしで、働けないと云ふ體ではないが、この足が惡いばかりに――

信吉さんは、時々さう思つて、不具になつた左の足を、殘念さうに叩くのでした

信吉さんは去年の秋、町の機械工場に臨時職工として雇はれて行つたのですが一ケ月も働かないうちに、片足を機械に卷かれ、ひどい怪我をしたので、びつこになつて了つたのです

この開墾地は、信吉さんが工場へ行く前、借りてをいた土地で、楢、櫟、栗などの木が繁つてゐた雜木林でした

それが、今一年ぶりに來て見ると、もう立派な畑になるばつかりでした。息子の民三が、寒い冬から暑い夏も、せつせと働いて、こんなに開墾してくれたのです

――來年の春には、もう何でも植つける事が出來る――と、信吉さんはうれしくてたまらないやうに微笑んで、息子の働いてゐる方へ歩いて行きました

開墾地には、民三の手で板張りの小屋が出來かかつてゐました

信吉さんは小屋の前の切株に腰を下して、煙草に火を吸ひつけながら

『ほう――こんな小屋までお前が建てるのか』

と、民三に云ひました

潮聲硯靜抄帳

『鮎』 渡邊武門特選

雨あとの小溝のぼれりごみ鮎 石城

瀬を上る鮎ありけり萩の隈

四ツ手網雜魚に交りてごみ鮎 花堂

浮草をゆさぶる鮎ありにけり 松堂

腹みせて桶に鮎の弱りけり 芳月

提げてまだ生てゐる鮎かな 欣々子

魚籠せまく腹横へる鮎かな 一來

ごみ鮎芦の中より釣られけり 何鳴

濁り江の藻草ゆるがすなまずかな 北窓

追加

ゆら〳〵と泳げる桶のなまずかな 武門

寄贈書目

△星座十月號 萬葉の歌と人(谷田部謙)韵月歌壇評(島田忠夫)短歌作品一二、三其他(一部三十錢 東京市淀橋區戶塚町三の一三三星座發行所)

△ローマ字十月號(一部二十錢、東京市麴町區丸の內三の一二ローマ字ひろめ會)

△短歌普選十月號 地方人としては好間村出身荷木淳氏が關係してゐる同人誌(一部二十錢、東京市淀橋區淀橋六六八其會)

學藝消息

◎『星座』歌會。十月十四日(日)東京市大森區上池上町五六五、林昌寺に開催

社會の今日

10月12日 △俳人芭蕉歿す(元祿七) △學良懸賞を以て日本將校暗殺の報傳はる△廣東の排日暴動化し、總領事邦人に引揚げを命ず(昭和六)△銀行ギャングの大陰謀發覺十五名檢擧さる(同七)

○

我が便り三日目に着くと書き給ふ、母住む里の遠き秋かな 關根眞砂子

妾などあつて遺言手間がとれ 雅人

講談 戶隱奇譚 山の怪秘

丸山寛雄作 浪木眞畫

(12) 人肉の味 (五)

山道を急いで登るほど苦しいものはない

心臓は早鐘の如く、額からは油汗、股の邊も汗のために、着物の裾がからまつて、足の踏み出しが思ふやうでない、全く、早駈けの山道ほど、困る事はない、休めば一層息が切れるし、進むにも呼吸が亂れて苦しい

刈馬平七郎、怪しいと睨んだ行列へ早く近づかうと焦るのだが、行列の方は、既に、その山尾根を裏側の方へ廻つてしまつたやうだ

しかし、血汐は？

平七郎、思ひ出した如く山道の荒い地肌に點せられた血の滴つた跡を、今更のごとく眺めると、奇怪にも今し方垂れ落ちたやうな生々しいものではないか、長く空氣に觸れぬ爲か、まだ凝結してゐない、ぬら〳〵してゐる氣味惡い血である

『あッ！』

と、平七郎は心に叫んだ

はるかに谷間に生えた杉木立の根に、圓い俵めいたものが二つひつかゝつたやうに轉がつてゐる、平七郎は、そこで怪しい行列のかついで行つたのは、こんな俵めいたものではないかと思つた

行列を追ふのには、滴つた血汐といふ道案內がある。まづ、この谷間の俵を調べて見やう――平七郎は、咄嗟に思ひついて、蔦の蔓を傳つてかなり傾斜の激しいその谷坂を下つて行つた、途中、幾度か落葉の濕つたのに足を滑らせたり、切株に蹉づいたりしたが、漸く俵めいたものの傍へ近づくことが出來た

見れば、それは推量に違はず炭の俵である。しかも五貫俵の大きなものだ。こんなところに炭の五貫俵が轉がつてゐるのは合點がいかない。平七郎は何とはなしに足蹴りにして見た。動かばこそ――大分、重さうな俵である。尚よく見ると隅の方からどす黑い血のやうなものがにじみ出してゐるではないか

さうだ、此奴だ！

平七郎はもう疑つてゐられない。いきなり一刀を拔き放つて、俵の中を切り開いて見た。あッ！いけない人の足だ。紫色にはれむくんだやうになつてゐる。赤い腰卷きの端もからみついて出てくる。女だ、しかも足の脛の肉が美事に兩足ともぎ取られてゐるではないか

平七郎はこの上に明けて見る必要はない。萬事は今の怪行列――あの正体を露はせば解決出來ることだ

平七郎は慌てゝ谷坂を驅け上つて尙も血汐の跡を追つた

俵のやうなものをかついだ數人の人影は、既にはるか頂上近いところに動いてゐる。平七郎は血の跡といふ絶好の道案內があるので遲くはあるが行列の跡をつけることが出來た

峰に近い狹い平地になつてゐる場所に來た時、はるかの白樺の樹の間に白い芋殼で屋根を葺き、周圍の壁を拵れた、二間半に、三間位の小さな山小屋のやうなものが、隱見する

怪しい行列を見失つてしまつたのも、この邊らしい怪しい小屋だな、覗いてやれ！平七郎は極度に緊張した氣持ちで靜かに小屋の方へ近づいた

小屋の周圍には薪であらう澤山に積重ねた粗朶があり手斧のやうなものも、壁に立てかけてある。粗朶を割りこなす大きな木の切株を置いてある。小屋の向ふ裏の邊には、三つばかり六尺高さの饅頭形の土釜が据ゑつけてある

何だ、炭燒きの家ではないか馬鹿らしい。わざ〳〵こんなところへ寄道して覗かなくともよかつたと、平七郎は踵を返さうとした途端、何となく人の騷ぐ聲が聞えて來る。ぢつと歩みを止めて聞き耳を立てると、その聲は正しくこの炭小屋の中からである

平七郎はそつと忍び寄つて行つた

十二日

日出 五、四四 日沒 五、一一 滿潮 前七、四五 後六、三〇
月出 前九、二四 月沒 後七、〇六 干潮 前一〇、〇五 後一、〇五

舊九月五日 金曜 丙辰 赤口 破 鬼宿 新十月十二日

諸判定處 東京市本鄕區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神聖館

▲一白の人 無理な發展を圖るよりも整理する方が勝ち▲二黒の人 平和なれども無爲に終らぬ樣に努力すべし▲三碧の人 浮薄に流れず質素にして物事手堅くすべし▲四綠の人 暗夜に險路を辿るが如し前後左右注意肝要▲五黄の人 一擧手一投足も疎かにす可らず愼重を要す▲六白の人 草木芽をふき次第に繁茂せんとする如き日▲七赤の人 言行一致を旨として所信貫徹に努むべき日▲八白の人 無理の行動は面白からず衰運忽ち身に迫る▲九紫の人 信義を守り上下に接すべし希望次第に成る

廣告

黑小倉通學服賣出
一襲秋色
さあ御召替です
なかやに皆樣の御滿足の得る品が何時も澤山揃へて御座ひます
小學生用(長ズボン付)
A ……… .90より
B ……… 1.10より
特製品 ……… 2.50より
中學生用
特製6號 ……… 3.50より
御註文(特上)…6.30均一
ふかや洋服店 平三 電203

平南町 川井內科診療所 電二四三

株式賣買、債權取立 合資會社 三共商事 平町大町電三六〇

女給さん大募集
高給者は金拾貳圓迄を給す
御希望の方は大至急御來談下さい。
平町三町目 花月 電話一七七番

自轉車ノ月賦販賣
御通知次第御伺ヒ致シマス。
エビスヤ自轉車店 平町南町 電六六四

精神病科 腦脊髓病科 神經病科
郡山腦病院
郡山市外大槻村針生 郡山驛より約三十丁 安積中學より約五丁
入院隨時
院長 醫學士 金森五郎 電話九二五番

日本姓名學會東北支部長 鵜沼孝昌 平町紺屋町
鑑定項目 名前のみで一代の運命何でもわかる
体力(肉体(健康、不健康、相貌)に關する一切。疾病(病根、病勢、病名)に關する一切)
活動(職業(適業、不適業)に關する一切。天運(成功、不成功、災厄)に關する一切)
血緣(家族運(父母の緣、夫婦の緣、子供の有無)に關する一切 男女緣(氣質、相性、相剋、婚期方位)に關する一切)
銀行、會社名、商號、家號、雅號、藝名、發子女姓名、生兒名

難波醫院
內科 小兒科
入院應需 自炊の便あり
平町大町 電話五〇二番
醫學博士 難波睦

セメント瓦製造 機械製作販賣
日本型 洋型 最新型各種 (御一報次第型錄呈上)
福島縣四倉驛前 萬年瓦工業株式會社 電話三八番

磐城共濟病院 (福島縣平町 電話六四一番)
內科 院長 醫學博士 石山謙郎 電話六四一番
小兒科 部長 岩手醫學士 平賀一忠
産婦人科 副院長 醫學博士 五十嵐雄二 電話三七〇番
外耳鼻咽喉科 部長 醫學士 坂本眞一郎
皮膚泌尿器病科 花柳病科 部長 醫學士 前澤正 電話二七二番
X光線科 醫學博士 石山謙郎
物療科 技手 石山彪
衞生試驗所 獸醫 高後利雄
藥局 藥局長 藥劑師 吉本孝平
事務長 鈴木寶雄
◎毎日午前八時ヨリ ◎夜間診療開始)毎夜午後十時迄 ◎病室完備 入院隨意

磐城鐵工機械同業組合

磐城家庭婦人會
皆樣方の御手不足を補ふ家庭婦人會が出來ましたどうぞ御試用下さいませ。
親切。迅速。
◎會員募集(入會金ト維持費ハ申受マセン)
平町字田町五(元郵便局ウラ) 駒井ヒデ 電話三九九番(呼出)

槍は長押に刀はサヤに 所得調査員選擧終る

政友四（四九六票）民政三（三二八票）

無競走の當選者決定

定員七名丈けの立候補乍ら各自最高點を目指し過去半ヶ月間に亘つて鎬を削つた平稅務署管內第三種所得委員選擧は昨十日午前八時から各町村役場に於て一齊に行はれたが得票の結果次の如く之が選擧會は明十二日午後一時から同署樓上に開くが立會人は酒井寅之助、猪狩庄平の兩氏に決定した

（補欠は平署管內分）

	平	植田	四倉	
一八三票	一七二	・	一一	鈴木邦三郎（政新）
（補）	一五三			岡田　千藏
一三六票	一二七	三	六	野崎　滿藏（民再）
（補）	八六			小濱長太郎
一二〇票	一一六	一	三	吉村安次郎（民新）
（補）	一一五			森　永太郎
一一四票	四四	六七	三	安島　久（政新）
（補）	一七			鈴木　林平
一〇九票	一〇〇	二	七	加藤　丈夫（政再）
（補）	二九			豊田　美孝
九〇票	八七		三	鈴木喜太郎（政新）
（補）	一七四			多田井笑次郎
八二票	七七	三	二	大平睦四郎（民元）
（補）	三五			矢吹　莊司

兩派懇親宴

投票當日勿來町で

所得稅調査委員選擧に際し郡南では大平睦四郎、安島久の兩氏が立候補し無競爭に終つたので昨十日午後四時半から勿來町松岡屋に於て慰勞を兼ねた懇親の宴を張つた

江名中の作兩港 復舊工事を急ぐ

暴風雨損害約四千圓

目下進工中の江名、中の作兩港は既報の如く去る七日來の暴風雨の爲假締切り防波堤が欠潰工事中止に陷つたので土木監督所では昨十日早朝大森主任技手が出張應急工事を施し河野町長も今十一日改修陳情のため出縣したが江名は締切り後未だ浚渫を開始しなかつたので直に再締切りをなし中の作は西側が未浚渫で東側が大体完了に近かつた處を潰されたので兩側共締切りを拋棄し過般來鹽釜港より來港中の內務省バッケット式浚渫船（約三十噸）で近く開始する筈で兩港の損害は約四千圓、これにより工事は幾分遲延するわけなので同所では極力これを督勵する事になつた

鎌田橋架換に伴ふ 道路敷買收準備

改修事務所で計劃を進む

鎌田山の開鑿により平及神谷を繋ぐ鎌田橋の架換え工事は既報の如く經費十萬圓を計上明年度に竣工される夏井川附帶工事として施工すべく目下改修事務所に於て基礎設計を進めて居るが橋梁延長百三十米、幅員八米五十の外これに連繫して同幅の新道路を開設する豫定であり、尙鎌田山開鑿の大工事も數萬圓を要する見込みなので同所では新春早々本格的設計に入ると共に平町所屬同川沿岸住宅及同川より鎌田山に至る水田の土地買收交渉をも開始する事になつたと

飯野關係買收解決

夏井川改修工事濟

地の飯野村關係村內四町六段二畝（人員五十四名）平町地域關係四段歩（十名）は種々の關係から買收行惱みの態であつたが其後數次の交渉により此程正式解決したが同川關係の潰地買收はこれで完了したので今後は從來の如き工事の遲滯を見ず順調に進捗するものと觀られて居る

美術の殿堂に氣を吐く 審査員級の赤堀氏

▷▷▷▷▷▷▷今帝展に力作發表

秋の上野を飾る帝展は日本畫、洋畫、彫刻、工藝、美術の各部とも搬入を締切りそれ〴〵審査員の手で愼重審査が續けられて居るが第三部彫刻は他に魁けて九月中に總出品四百五十五點の審査を終り百五十二點の入選を見、內新入選は二十二點で九日午後五時入選者を發表した

發表された帝展第三部（彫刻）入選のうち本縣出身者の顏ぶれは、まづ久しく鳴りをしづめてゐた審査員級の平町出身赤堀信平氏が華々しく返り咲き、鈴木二郎（猪苗代町）富岡忠弘（石川町）以上新人二名が榮譽を荷なつた

三夫婦決定

芽出度い鶴屋一家

來二十八日行はるる高麗橋渡初めの三夫婦は過般來物色中であつたが今十一日四丁目鶴屋猪狩庄平氏一家に決定したと

一人一頭の逐鹿乍ら 高點を爭ふ獵師心理

選擧樂屋裏風景展望

定員七名丈けの立候補で現行選擧法の觀念から行くと『候補者其の選擧に於ける議員の定數を超えざる時は其の選擧區に於ては投票を行はず』に濟むんだが、適々立法文化に取り殘され運動の形式も判裁法規も黴臭い舊法の支配を受くるもの丈けに、金輪ザイ落ちつこの無い選擧ではあるが、そこが一票でも多く欲しい候補者心理と、此機會に於て三度〱温い飯にありつき、加之に實費に何倍する草鞋錢に有りつかんとする所謂運動員の犇めき合ひから、各事務所共相當の選擧氣分を漂はせた事に間違ひは無い

×

大形の土瓶から燒きつかせぬ位良き程に温めた琥珀色のお茶（?）を滿々と酌いで、虹の樣な氣焔を吐き乍ら『この一戰』を一人で背負つて立つ程の氣概を見せる連中が日々×人、半月間の延人員○○人。之を基本として計算すると、所得調査委員たるまた難い哉。貧乏人には一寸手出し兼ねる藝當だ

×

閑話休題。

調査委員及補闕員の選擧終了したる時は稅務署長は當選人の氏名を公示し且之を當選人及町村長に通知する。町村長前項の通知を受けたる時は當選人の氏名を公示する。調査委員又は補闕員に當選したるものは正當の事故無くして之を辭する事を得ない。調査委員及補闕員の任期は選擧期日の屬する月より四年とすと云ふのが稅法の示す其の建て前である

×

其れは別に問題は無いとしてたゞ調査委員に闕員を生じたる時は投票の最多數を得たる補闕員より順次之を補充し——とあつて、勢ひ正員とは反對の黨派から後釜が出來るなどは、最初から誰れ其れの女房役として選まれた補闕員の期待を裏切る事も甚しいと云はねばなるまい

×

尤も其れは稅法に列記した調査委員たり得ぬ欠格條項に當て嵌つた時の事で之れが不吉な假設の下に敢て內容を詳述するの鋒を擱く事にする

輝かしき新調査委員と補闕員の上に榮光あれ

光榮の奉送迎者

平驛出入員數改正さる

平驛に於ける御召列車奉送迎のホーム入場者停車場本屋內又は本屋外に入場し得る者の數はこの程

御乘降の際　五〇名
御停車　一〇〇名
御通過　二〇〇名

に變更されたが有資格者は左の如し

(1)ホームに入場し得る者

一、宮中席次第六階以上　一、奏任官、同待遇者　一、神佛各宗派管長　一、門跡寺院住職　一、縣會議長、副議長　一、市長　一、市會議長、副議長　一、宮中席次第六階以上の者の夫人

(2)停車場本屋內又は本屋外に入場し得る者

一、各種褒章拜受者　一、商工會議所會頭　一、町村長　一、市助役　一、中等學校長　一、小學校長　一、縣會議員、市會議員　一、縣、郡、市農會長　一、縣、郡、市醫師會長　一、縣齒科醫師會長、縣藥劑師會長　一、郡、市青年團代表者　一、行在所所在地官衙の長　一、縣、郡、市教育會長　一、辯護士會長　一、縣社社司　一、宮中席次第七階以下の者　一、學位を有する者　一、警察官吏、消防官吏功勞徽章を有する者　一、赤十字社特別社員以上の者　一、帝國軍人後援會特別會員以上の者　一帝國水難救濟會名譽會員以上の者　一、日本海員掖濟會特別會員以上の者　一、帝國海事協會特別會員中銀錨銀色章、黑錨金色章、金錨金色章、有功章（孰れも總裁宮殿下御肖像付）帶用者　一、忠勇顯彰會維持會員以上の者　一、同仁會特別會員以上の者　一、帝國飛行協會正會員以上の者　一、濟生金貳百圓以上の寄附者　一、前各號の者の夫人　一、赤十字社篤志看護婦人會支會長支會副長及幹事　一、愛國婦人會支部長、支部副長及幹部（職員章携帶者）並有功章佩用者以上　一帝國在鄉軍人會支部、聯合分會又は分會代表者（各二名迄）一、大日本武德會一等、二等有功章佩用者　一、大臣より選獎せられたる者　一、神職、寺院住職

關西風水害地救濟 義金千圓突破

平町役場取扱現在高

平町役場取扱ひ關西地方風水害義金其後の分左の如く消防組其他を合せ千二十四圓三十五錢に上つた

久保町二五圓七五錢、南町四四圓、大町三一圓、一丁目五五圓

五丁目青年分團服新調

平町五丁目青年團では從來團服の統制を欠いて居たので此程折襟バンド附カーボイ式帽子などスマートな正服が出來上つたので團員二十三名は昨十日これを着用縣社子鍬倉神社で記念撮影をなした

第一受賞兒

本社牌は伊藤君

平第一校運動會は昨十日を以て完了したが賞牌受賞者左の如し、尙本社寄贈メダルは六ノ一伊藤俊夫君（二百米＝三一秒六）の手に渡つた

△尋一（七十米＝記錄一一秒）佐々木健夫、小林智年、正木和夫
△尋二（百米＝一四秒二）栗田孝一、中澤渉、近江幸次郎
△尋三（同＝一七秒二）吉田俊夫、山木弘、藤井貴一郎、新妻富喜
△尋四（同＝一七秒二）田山弘平、大谷繁雄、關原進
△尋五（二百米＝三二秒二）馬目久二男、若松俊彥、新妻唯男
△尋六（同＝三一秒六）伊藤俊夫、篠山逹兒、新妻喜太郎、齊藤義孝、志賀正一
△高一（四百米＝一分一二秒）田中榮太郎、增尾三郎
△高二（同＝一分八秒六）佐藤喜一、吉田喜造

尙紅白對抗は八百四十九點對六百四十九點で、紅白リレーは七分十七秒八で何れも紅の勝

獵解禁の切迫に 胸躍らす天狗連

平署へも續々出願か

紺青に澄み切つた秋空の山野にバンと快い獵銃の響き——狩獵家待望の狐、狸、山鳥、雉等を除く獵解禁、十月十五日もいよ〱四日の後に迫り、天狗連は愛銃の手入れ、愛犬の訓練も終り各獵場々々の偵察等も終り、解禁當日の來るのを手ぐすねひいて待つてゐるが平署管內でも平町大町鈴木勝雄、小川村池田定記の兩氏が一兩日前相前後して願共のトップを行つたが尙續々申込みあるものと觀られる

第二校選手

磐女運動會へ 出場の顏ぶれ

平第二校では來る十七日神嘗祭を卜して開催さるる磐女第二十一回陸上運動會の呼物郡下小學女兒百米及び四百繼走に再勝し優勝旗を保持すべく出場選手詮衡中だつたが左の如く正補選手を決定、今十一日は正午より之が推戴式を行つた

四百米繼走—飯塚さと子、長瀨喜美、渡邊イノ、大木アサ（補）大谷ケン子

百米競走—長瀨喜美（補）飯塚さと子

。。。。。兒童競技委員會　來る二十一日磐中校庭に開催さるる第三區兒童競技會第二次委員會は來る十八日平第一校に於て開くと

出稼ぎの不在中 家主の道具を捨賣り

圖々しい夫婦檢擧さる

內鄉村大字綴字町の內四六無職鈴木長吉(三八)は內緣の妻小池セキと共に同所荒木キヨから月四圓で家財道具共借家してゐたが去る七月卅日からキヨが川尻方面へ出稼ぎの留守中最近迄前後七回に亘り該家財道具を皆自分のものだと詐稱、同村坂本政好に依賴しこれら十七圓五十錢の箪笥其他戶棚布團など（見積價格約二百餘圓）を乗値同樣で賣却或は入質した事發覺、昨十日同村駐在巡查に檢擧され目下餘罪取調中だが長吉は賭博常習の男であるらしいと

蜂谷柿輸送

昨年より增加豫想

大野、楢田方部を主產地とする蜂谷柿は昨今漸く出廻季に近づいて來たので郡農會其の他が銳意共同出荷に就き腐心しつゝあるが平驛よりの移出は去月廿二日の三三貫をトップとし同月中七二九貫を今月に入つては昨九日迄に三、四一三貫で天候不順による出廻り遲れと過般の暴風被害少からぬものあるが尙は驛當局では昨年（九四廸）以上の成績を擧げ得るものと期待してゐる模樣である

。。。。。木澤氏寄附　平町研古區長木澤常松氏は此程第二校に敎育參考資料として熨斗水引細工十五ケを寄贈した

遊びも品物も丸儲け

只飲みの窃盜男檢擧

岡村ルンペン飯野村上高久字片岡一四生れ前科二犯大和田義光(二八)は去る八日平町遊廓榮樓に高橋文也と僞名登樓十餘圓を遊興費消した後持ち金が無いから飯野の叔父から貰つてくると番頭を馬につけ隙を見て逃走、翌九日同村河川改修吉田飯場から自轉車一臺を窃取した外同村附近で數件の窃盜を働き行衞を晦してゐたが昨十日植田町を徘徊中同署員に逮捕された

町內軟式野球試合

來十七日決行

平軟式野球協會主催第四回町內野球大會は來る十四及び十七日磐中、平商及び第一校の三球場で開催する筈だつたが既報の如く十四日は町內淸潔日その他で都合惡く第一日を十七日に出來得るだけ行ひ殘餘は期日を更め行ふことになつた

十三日例會

今夕に繰上開催

平町十三日會例會は先頃歸校の小檜山磐中校長により視察談ある筈だつたが都合で同校第二十五回卒業滿洲國ハルビン警務指導官好間村關ノ上出身西山金雄氏により滿洲事情の講演會を期日を今十一日に繰上げ午後七時よりマルトモホールに開くことになつた

敎員媬姆試驗委員

篠山第一、津田第二、赤津第三各校長は來る廿二日より五日間第一校で執行される小學敎員及幼稚園媬姆試驗檢定臨時委員に、磐女永島敎諭は同じく附敎員體操實科擔當臨時委員を命せられた

吉岡檢事歸廳

石住貝泊方部の山村から植田署に檢擧送檢された常習賭博事件取調べのため植田署に出張した平檢事局吉岡檢事は關係者村議蛭田千代三（五五）外三十六名を召喚嚴重取調べの上昨十日歸廳した

紅葉の江田に 一分間停車

サービス日を決定

福島運輸事務所では磐越東線の列車客を慰安する爲めに左の日割で川前—小川鄕間の江田信號所附近に上下列車を一分間停車せしめて附近一帶の紅葉を滿喫させる事になつた、そのサービス日左の如くである

△十月十四日、十七日、廿一日、廿八日△十一月三日、四日、十一日、十八日

。。。。。五十嵐巡查合格　濱通り警部補考試第一次試驗は此程宮岡で執行されたが受驗者百餘名中過般部長試驗をパスした平署五十嵐健雄氏が二十三名と共に合格、來る十六日縣廳で第二次試驗を行ふが採用者は四五名位であらうと

。。。。。磐中野外演習　磐中四年生二百餘名は今十一日比佐遠藤兩敎師指導の下に內鄉村御臺境、好間村下好間、平町松ヶ岡公園を中心として野外演習を行つた

。。。。。濱三郡敎育總集會　來月十一日相馬中村町に於て開催さるゝが石城部會よりの研究發表者は平第二校の海野訓導で演題は『小學圖書の鄉土的取扱の實際』であると

X。。。。。美友兩畵會延期。磐中X會及び美友會は何れも今月下旬展覽會を開く筈だつたが磐中五年生の兵營宿泊その他のため何れも來月初旬に延期することになり目下會員何れも製作に精進してゐる

。。。。。飯塚社掌兼務　泉村瀧尻鄉社諏訪神社々司飯塚重光氏は此程同村下川村社出羽神社の社掌兼掌を命せられた

寄附褒賞一束

豊間村鈴木淸利氏は八年十二月同遠藤俊雄氏は八年一月、同馬目仙馬氏は二年十月、何れも同村小學校基本財產に百圓を寄附。大野村佐藤男松氏は九年三月、東京市佐藤久治郎氏は同四月、大野村鈴木榮之助氏は同七月同木村正夫氏は同八月、四倉町磐城洋灰會社は同八月何れも百圓。大野村木田織江氏は百五十圓、何れも同村第二小學校增築費に寄附し各々此程褒彰條例により褒狀を下賜された

大辻司郎氏 漫談會延期

都合上來月に

平町青年團では資金募集のため既報の如く漫談家大辻司郎氏を招き明後十三日漫談と映畵の夕を催す筈であつたが同氏の都合上來月に延期された

巡回診療日割

縣衞生課巡回診療の郡下日割次の如し

△十九日鹿島△二十日笑輪△廿一日永戶△廿二日川前△廿四日貝泊△廿五日荷路夫△廿六日石住